

◀過去のからいもフェスティバルではからいもの歴史ブースを企画し来場者にご紹介。今年で30回目となる同フェスティバルでは、からいもの魅力を発信する「からいもシアター」を上映予定です。約15分に及び力作は必見です。

◀大名への献上品と言われるからいも菓子。熊本県の伝統菓子朝鮮餅のような味の「川砂糖」①とスイートポテトのような味の「ハルデ」②。過去のからいもフェスティバルではレシピを再現して振る舞い、大好評でした。



# 「全ては生まれ育った大津町への恩返し」



西村 和正さん（大林）

町の、からいも博士」と呼ばれ、今年4月に中世の豪族「菊池氏」の始祖の出自について考察した論文が郷土雑誌「熊本史学」に掲載された西村和正さんにクローズアップする。

「短い人生、後悔しないために今できることを全力でしたいと思っただけです」  
西村さんは元役場職員。職員時代、町特産のからいもを「みんなが誇れるからいも」にしたいと思い、51歳の時に一念発起。町のからいも文化を掘り起こそうと、謎が多い伝来のルーツから調べ始めた。

それ以来、休日のひとつは図書館、史跡通い。さまざまな史料を読み漁り、時には文献の著者に連絡をとるなどして、3年かけ調べ上げた。その結果「からいもは鹿児島より100年早く熊本に伝来した」という、定説を覆す新たな説にたどり着く。また、江戸時代、からいもは高級品で、からいもから作られた菓子は大名への献上品だったという説も。

「調べ始めた当時、からいもは戦中・戦後の飢饉食というイメージがありましたから、それが覆る説を発見した時は素直にうれしかったですね」と顔をほころばせる。

さらに、熊本にからいもを持ち込んだ人物が中世の豪族菊池氏と関わりがあるという説にたどり着き、今度はその始祖を調べ始める。50年以上進展がなかったその分野においても、新たな説を提唱し、専門家からも高く評価された。

「自分が調べた町の知識を、毎年からもフェスティバルで披露するのが楽しみなんです。町の魅力を掘り起こしてみんなと共有する。そして郷土にもっと愛着や誇りを持ってもらおう。そのためにもできることは、まだまだたくさんあると思うんです」と目を輝かせる。

全ては生まれ育った大津町への恩返し、ゆるがないその情熱を胸に、西村さんの挑戦は続く。ついで。

## ついでの声

▼私の天敵「蚊」は気温35℃以上になると刺す意欲をなくす▼そんな話を友人から聞き、地藏祭の取材の際も暑いから大丈夫と虫除けをしていませんでした▼祭り最後の花火・撮影スポットを探し、構えていると蚊が集まりだし刺すわ刺すわで30箇所以上▼表紙はそんな苦労の結晶です(MOMO)▼書道パフォーマンスの墨は服についたらほとんど落ちないそう▼子どもの頃習字をするとき何故か体のあちこちに墨がついていた私は取材時内心ドキドキ▼墨の匂いと筆を入れる時の程よい緊張感に心が落ち着きました▼秋は食欲まっしぐらでしたが今年も芸術に親しむのも良いですね(UE)

## からいもくん便り

大津町総合情報メール  
携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。  
登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください(スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。  
QRコード

UD FONT  
易やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

大津のことがもっと好きになる情報誌

# おおづ



10  
OCTOBER 2018

Public relations  
OZU TOWN  
広報 おおづ 2018 10

発行・編集 大津町・総務課  
〒869-1292 熊本県菊池郡大津町大字大津 1233 番地  
TEL.096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

印刷 印刷株式会社  
〒869-1292 熊本県菊池郡大津町大字大津 1233 番地  
TEL.096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

今月のみどころ

巻頭記事

## 大津地蔵祭

特集

シリーズ障害福祉 ①

## 共感を共生に